



談

が、私も市民の目線で事にあたられるというのが、いちばんありがたいことだと思っていました。あれはそもそも北朝鮮の理不尽な犯罪行為ですからね。

中山 日本で起きれば、誘拐事件です。警察が取り囲んで、救出にあたります。国際社会の中でもやはり犯罪行為で、決して許されない行為です。ただそういった意識が北朝鮮にはないようです。日本人を拉致した人々は称賛されるような状況ですから。

金子 国家犯罪ですね。日本で例えば公務員が手を下して連れて来たような感じですかね。

中山 警察が拉致したという、そんな感じですね。

対

金子 北朝鮮にいらっやいました。どんな状況でしたか？

中山 私は五人の被害者の方々が帰って来るとき、平壤空港まで迎えに行っただけで、まったく北朝鮮の町には出ていないので、空港の中しか知らないんです。

金子 では北朝鮮の市民とか人々の暮らしは？

中山 まったくわかりません。金子 そのときの北朝鮮側はどういう態度だったんでしょうか。

中山 五人を送り出すというところでしょね。

金子 こちらから見てみると、拉致しておきながら、ずいぶん恩着せがましいという感じがしたんですけれども、中山 そうですね。拉致したことが悪だと思っていないでしょうか、あの五人にミッションのような、出張命令を出したような感覚ですね。五人の様子を見ています。

金子 向こうはまた帰って来るといふのを前提に……。

中山 前提に動いていたはずですね。私たちがみると、この五人は日本人で日本から拉致され、よくぞこれまで生きていたという感動が湧きますけれども、北朝鮮側に見れば、北朝鮮

公民を出張させるという、そんな様子だったろうと思います。

きつと拉致した人、管理している人、送り出す人というのが全部違う組織の人で、それぞれ与えられた任務しか動けない。送り出す人は、五人を出張させるための仕事をしているだけで、拉致被害者だということも知らされてないことでしょうか。

金子 そのいうことだから、出張命令で出て来た五人の方々の、今度は家族や中山さん達がガードして、説得し、親子の情を通わせたり、いろんなお話をなさって留めました。みんな北朝鮮のパスジをつけているし、あれはまた大変なことでしたね。

中山 五人の方々にとっても、その受け入れた家族の人たちにとっても、本当に大変だったと思います。自分たちは出張命令を受けて来ているのだから、「帰らなければいけない」という主張をずっとしていましたし、最初「毎日、一定の時刻にその日のことを付いてきた北朝鮮の指導員に報告しなければいけない」と言っていましたから、それを聞いて、電話を取らせないようにし、部屋から全部電話をはずしたと聞いています。携帯電話も持たせませんでした。連絡が取れないようになりまして。

金子 まずそこから始まったんですね。

中山 接触を断ったのです。日本人の家族のなかに閉じ込めてしまったという事です。

金子 中山さんはそのときに、五人とご家族とのあいだで、仲立ち、調整というか、いろんなことをおやりになるわけでしょう。

中山 私自身がたいしてやっていたわけではありません。家族の方々が本当に必死で心を尽くし、「あなたは日本にいるべき人なんだよ」ということを伝えてくれたのだと思います。

政府のなかにはいろんな意見がありまして、「できればいったん戻してもらいたい。戻せないのであれば、本人たちが帰りたいと言っているから日本にいてもいいよ」という言い方で北朝鮮に伝えたい」というような意見

もありました。

それに対して、日本国民が連れ去られ、日本の主権が荒らされているのであるから、たとえ本人が帰りたいと言っても、本人の意志にかかわらず、日本国として五人はもう戻さないということを決めてくださいというお願いをいたしました。皆さんよくわかってくださいました。こういった会議は安倍官房副長官を囲んでなされていましたので、この考えで方針を決定することができました。副長官を通じ、福田官房長官、総理まで上げていきました。

そして官房長官が、本人の意志にいつさいふれずに、政府が五人を留める方針を発表したのが十月二十四日でした。十五日に帰って来て、十日間で戻るといふぎりぎりの日ですね。北朝鮮に残された家族については、日本政府が北朝鮮と交渉して日本に連れて来る。家族がやるのではなく、日本政府がそれをするということがはっきり書き込まれた政府方針が決定されたのです。

金子 日本の国としてのけじめですね。

中山 そつでしたね。

金子 ただ、家族が残っていました。息子さんや娘さんやご主人が北朝鮮にいたのには、こちらに留め置くという判断には相当の決断が必要だったのではないですか。

中山 そつですね。危険を冒すことになりまして。実はその段階で五人とも直接、間接に、「日本政府が北朝鮮と交渉して家族を日本に連れて来てくれる」ということであれば、自分たちは日本を待ちます」ということをはっきりと伝えてくれました。そこまでは家族のなかで激しい葛藤があったのでしょ。

金子 あれは素晴らしい意志統一ですね。中山さんがいかに「苦勞なさったのか」という感じがしました。

チャーター便の理由

中山 五人の状況判断は、非常に早くて正確です。拉致された頃は二十歳前後ですから、普通の子供たちだった

と思います。二十数年間北朝鮮で生き延びてきた中で、本当に鍛えられたと、驚かされるような場面がよくありました。



確実に連れ戻されてしまつと、五人ともよくわかって……。

金子 それで非常に「苦勞なさつて、インドネシアのジャカルタに設定して、中山さんが現地にいるという説得なさつた。

中山 私はもう現地ではただ見ていただけで……。それ以前に、「チャーター便を出してください」というお願いをしました。

金子 ああいう発案は中山さんのほうからなつたのですか。

中山 そつですね。最初に五人を迎えに行くときのチャーター便に関しては、強くお願いをした経緯があるので、一回目、二回目は、スーツと通りました。ただ、全国から、「チャーター便を出すなんて特別扱いじゃないか」というようなコメントが、メールとか電話とか手紙とか、いろんな形でずいぶん寄せられました。

しかし、チャーター便を出し、ジャカルタで大きなホテルに泊まり、またチャーター便で帰ることは、曾我さんが望んでいたからではなく、そういうオペレーションでなければ、ジェンキンスさんと二人の娘さんを日本側に取り込むことが不可能だったからなのです。

仮に民間航空機でジェンキンスさんと娘さん二人がジャカルタに来たとします。まわりは北朝鮮の人たちが取り囲んでいて、こちらからひとみさんと日本側の人が行って、ジャカルタで対面するとなつたときに、とても三人を日本側に取り込むというのは不可能です。日本はそういう工作技術というのをまったく持っていません。北朝鮮は鍛え抜かれた工作活動の達人たちが来ているわけですから。

金子 そついう感じを受けましたか。

中山 ええ。拉致された被害者にとつては、具体的にあれこれ言われなくても、「わかってるね」というその一言で、何が起きて、自分がどうなる

か……。金子 読み取らせるんですね、従わないと結果はどうなるって。

2004年7月・ジャカルタで

中山 外国の新聞のインタビューに対して、ジェンキンスさんは、「小泉総理が一時間もかけて説得したのに、なぜ一緒にいこうと言えなかつたか」という質問に対して説明をしています。「盗聴器が仕掛けられ、すべて自分の発言は聞き取られていました。もし自分が小泉総理と一緒にいって行きますと言つたら、その日のうちに自分の命は終わっていたらどう」と言っているんですね。「ライフ」という言葉を使っていますから、「命」と言っているのか「生活」と言っているのか。いずれにしても、ジャカルタでひとみさんが一緒に日本に行きましようと言つても、まわりに北朝鮮の人が囲んでいる限り、どうしても一緒に日本に行くとは言えないんですね。逆にひとみさんが「北朝鮮に行きます」と言わざるを得ない状況が作られてしまつたことになつたことでしょうか。

ですからチャーター便をお願いし、平壤でジェンキンスさんと二人の娘さんもチャーター便に乗って来ました。しかし、日本のチャーター便はもう日本の領域です。ジャカルタに飛行機が着いたとき、タラップからまずジェンキンスさんが降り、美花さんとプリングダさんが一緒に降りました。その後ろに日本人が降りて来ましたけれども、北朝鮮指導員は一緒に……。

金子 降ろさなかつた。

中山 バスに乗り込んだ段階でジェンキンスさんと娘さん二人と曾我さんの四人を取り囲んでいるのは日本人だけになりました。ホテルのロビーに入つたら、ジャカルタ在住のとても多くの日本人の方々が取り囲んで、「ジェンキンスさん」、「美花さん」、「プリングダさん」と名前を呼んで歓迎してくれました。娘さんたちはそれまで日本はひどい国だという教育を受けてきていたのですが、この頃から一種の混乱状態

が……。

新 春 対 談



中山 インドネシア大使公邸に招かれた頃でしょうか。飯村大使が思い切って公邸に招きまじょうと。これについて、北朝鮮側から非常に激しい抗議がありました。飯村大使は肅々と進めてくださいました。

というか、事実と違うことを教えられてきたのではないかと思いついていたよかったです。

ホテルの十四階はすべて日本人が陣取り、その一角に一家四人を押し込めました。このフロアに降りるにはカードがないとエレベーターが開かないシステムになっていました。北朝鮮から付いて来た指導員達が十四階に入ろうとエレベーターを停めて開けると蹴つたり叩いたり大騒ぎをしていたそうです。北朝鮮側はインドネシア政府に対しても激しい抗議をしてみました。そうしないと自分達の責任を問われるからです。

その様子を見ると、逆に安否不明の十人は相当数が生存していると感じます。管理を任された日本人拉致被害者が病気になるたり、日本に帰りたいと騒いだり、交通事故にあたりたりしたら管理責任を問われるわけですから、簡単に病死させたり交通事故にあわせるはずがない。管理者や指導員がたたく責任をとりたてたという話も聞いていませんので。

金子 自動車の普及していない国で自動車事故だとか、みんな四十代の若さで病死だなんてことはあり得ない。

中山 そうですね。北朝鮮の気配のまったくしない環境が作られて、やっとジェンキンスさんも、実は日本に行きたいんだ」とはっきりと言いました。そのときも娘さんは、「そんなことしたら殺される」と言っていますから、そういう指導を徹底して受けている様子が見受けられました。

金子 一つ頃から変わったのでしょ

ます。ですからひとみさんはジャカルタでもすごいエネルギーを使いましたね。曾我さんは一人でしたので、帰国したあと、曾我さんは北朝鮮に帰りたいんだらうとか、戻すというような工作活動があったと思います。曾我さんから、家族四人一緒に住むならどこでもいいということを言わせよう、とずっと追いかけていたメディアもありました。

大使館というのはまさに日本ですから、大使公邸に入つて日本と

いうものが北朝鮮で聞いていたのはまったく違つたということをはっきり認識したと思います。そのとき、ジェンキンスさんはアメリカにいるジェンキンスさんの妹さんと夫婦と電話をつないでもらえたので、「自身の妹さんと三十九年ぶりに相当長い時間話をしてました。ジェンキンスさんはもちろんのこと、娘さんたちも、その様子、その電話が終わつたあとのジェンキンスさんの様子を見ていて、変わったと思ひました。娘さんたちに話しかけて返つてくる対応の表情が、あつ変わったな」という印象を受けました。

金子 そういう意味で大使館というのは重要なんですね。閣下としての大使の判断は日本国の判断ですから、あ

中山 ありがとうございます。そんな形で隔離されたことで、三人はやつと「日本に行きます」ということが言える。そうでもない自由な発言ができない状況にみんな置かれていたということなんですね。

金子 中山さん自身は、ジェンキンスさんも含めて、家族の絆を大切にしながら日本に連れて帰れるという自信はありましたか？

中山 そうですね。このような形で運ばない限りは連れて来れなかつたでしょうから。

金子 それは曾我さんとはよく口頃からお話をなつたり、気持ちを通じ合つたりして、中山さんは嘘はつかないという信頼を得られたからでしょうか。

率直に言うてどうしたらいいか、例えば経済制裁ということが取り沙汰されています。

中山 非常にむずかしい問題ですね。いまのままの状態、説得に説得を重ねていく。それは日本だけでは説得しきれないでしょうから、アメリカの協力を得たり、または力ギを握っている中国とも連携をとって、「このままでは北朝鮮自身が非常に不利になる。拉致した人々を全員帰してしまつことが北朝鮮にとって有利である。」という

ような説得を、これまで以上にやつていかなければいけないでしょう。けれども、北朝鮮が違つた政策をとるかという、なかなかとらない。どうしても説得できない場合、このままではだめなんだなというところを理解してもらつた

めの手段ですね……。日本国内では北朝鮮関係者に非常に特別な扱いをしていることがたくさんあります。東京都は課税措置をとりませんが、特別扱いをやめること。さらに北朝鮮に向かつてとれることという、経済制裁措置であったり、船舶の入港禁止であったり、そういったことになってきますね。

その場合、何を目的にそのような措置をとるか。怒りを表現するために経済制裁措置をとるのか、拉致被害者救出の筋書きがしっかり作られていてその一環としての制裁措置をとるのか。ただ、目的はそうであっても、向こうで非常に困難な状況に陥っているような一般の人々にまで影響が及ぶような措置では困る。一般の人々ではない特殊な人々だけに効果をもつような制裁措置というのがとれるのかどうかですね。

金子 ありますかね。やっぱり弱いところにしわ寄せはいきますよね。強い人は逃れ、子供、女性とか老人とか弱いところに被害が現れるからむずかしいですね。

中山 非常にむずかしいですね。アメリカの場合、日本や韓国から拉致された人々の安否が明らかになり、生存している人々がすべて帰還するまでは経済支援はしない、という法律が既にできています。経済支援をしないとい

うことを伝えるというのも一つの手段だと思ひます。

制裁措置をとる場合、北朝鮮がどう動くかというのもしつかりつかないといけないですね。核やミサイルいろいろな動きも絡んできます。日本にはまったく被害を出さないで、北朝鮮の特定の人々だけに効果のあるようなやり方がとれるのかどうかですね。

各官庁とも検討を進めている筈ですが、全体を統合した形で戦略を立て、戦術を練つて対抗していくことが必須です。しかしまた、どちらかという

ばらばらで、場合によっては個人的なつながりを頼りに方針が出されているというのが現状ではないかと思ひます。説得だけではなかなか解決しないというところが、この十年間の北朝鮮とのいろいろな交渉のなかでわかつてきています。拉致問題はまだまだこれから

です。いま北朝鮮側は、二年前の九月十七日に金正日書記が小泉総理に伝え、八人は死亡、二人は入国してないとの線を書く方針を変えていないように見えます。それは、裏返せば生存者が相当いるということ。政府が認定している十人以上も拉致された人はたくさんいるでしょうし、その人たちも含めて多くの日本人生存者が、北朝鮮で救出を待っているものと考えると、対応しなければいけないと思ひます。

金子 中山さんは内閣官房参与というお仕事を離れても、これからも拉致の問題にいろいろかかわられることだと思ひますし、私も税理士という仕事を超えて、国民の一人として、この問題に関心を持っていかなければいけないと思ひます。

中山 ありがとうございます。

税理士は国民の立場で発言

金子 税理士会では、本来の仕事である税務の専門家という立場から、日本の税制はどうかあるべきか、いまある税制をどう改正していくべきかを毎年建議しているんです。税制改正の意見は、いろいろな業者団体も提出しますし、

経団連などの大きな発言力ある組織もありますから、私どもが出す場合は税理士の目線というのが問われることになりま

すから我々の意見は業者団体とも違つた、大規模な組織の意見とも違つたものではないかと思ひます。

中山 そうですね。税というのは生活に非常に身近なものですし、生活そのものを規制する事柄ですから、税理士さんは直接そういう市井の人々や中小・零細企業の人々と接して、その考えがいちばんわかる立場ですから、大事ですね。

金子 私どもが税理士としての社会的な機能を果たしていくために、ぜひ大蔵省女性キャリアとしての経験や国際的な経験からも、これから東京税理士会にいろいろな形でアドバイスをいただければ、本当に嬉しいと思ひております。

中山 税というものが社会を発展させていく基礎であり、税制のあり方次第で社会が変わっていくものだから、過言ではないわけですね。しかも社会の動き、社会そのものが大きく変わつてきていますから、それに合わせて税理士会の活動する場というものも非常に大きくなってきていると思ひます。

金子 経済の動きは活発ですから、同じところに留まっているわけにはいきません。それに合わせていつも進化・発展していかなければならないという、必然性を持って仕事をしようと思ひております。

中山 税理士及び税理士会が社会にとつてますます不可欠な存在になっていくでしょうし、「活躍を心からお祈り申し上げています。

金子 結びにあたり、中山さんのご健康、そしてご活躍を祈念申し上げます。ほんとうにありがとうございます。

中山 ありがとうございます。